

|                            |            |
|----------------------------|------------|
| 一年海キャンプ (由良学舎)             | 7月21日～29日  |
| 二年山キャンプ                    | 7月21日～8月2日 |
| 教育実習                       | 9月3日～17日   |
| 学園祭                        | 9月22日～26日  |
| 体育祭                        | 10月8日      |
| 遠足                         | 10月8日      |
| 宗教改革記念礼拝                   | 10月30日     |
| 秋季宗教人権週間                   | 10月31日     |
| 収穫感謝礼拝                     | 11月2日～9日   |
| 創立記念礼拝                     | 11月21日     |
| クリスマス礼拝                    | 11月27日     |
| クリスマス礼拝                    | 12月19日     |
| 三年生スキーキャンプ                 | 12月21日～29日 |
| 幼稚園                        |            |
| お泊り保育 (年長組)                | 7月20日～21日  |
| 9月お誕生日会                    | 9月16日      |
| 運動会                        | 9月22日      |
| 遠足 (三歳児クラス) 宝ヶ池子どもの楽園      | 9月28日      |
| (四・五歳児クラス) 山城多賀フルーツ<br>ライン | 9月25日      |
| 10月お誕生日会                   | 10月21日     |
| 11月お誕生日会                   | 11月11日     |
| 収穫感謝祭                      | 11月21日     |
| 12月お誕生日会                   | 12月9日      |
| クリスマス礼拝                    | 12月18日     |

### 同志社校地出土の埋蔵文化財(13)

鈴木 重治

#### 瓦質秉燭<sup>がしつひちやく</sup>



(安土・桃山時代)  
同志社大学徳照館地点  
SK 206 出土  
高さ29 cm

ひょうそくは、「柄燭」とも書く。この場合は、燈火具のうち柄の付いた手燭を指す。いずれも、改良の加えられた採光具の一種である。つまり、菜種油をはじめとする植物油を、皿または碗状の器に入れて、それに燈芯をひたしてあかりをともしたり、ローソクを使用する燈火具である。行燈、燭台などとともに広く使われた時期がある。

古来の裸火照明が手火<sup>たび</sup>となつて炬から床に上り、しかも移動することが可能になつ

たことは、住いの中での空間利用に大きな変化をもたらした。加えて、自然的な時間を社会的な時間に高めた点でも意義をもつ。日の出前や日没後の行動を可能にしたことで、社会的慣行の発展や充実に寄与したことになる。

行燈、燭台などにもさまざまな形態があるが、地下からの出土資料についてみると、京都とその周辺では、土師質で灯明皿の形態をもつた燈火具が圧倒的に多い。次いで瓦質、陶質、磁質などの焼物製の燈火具が検出されていて、まれに金属性の手燭が出土している。大量に出土する土師質の灯明皿は、神事、仏事などの祭祀にあたって使用されたものであろう。

ここに示した瓦質秉燭は、冷泉家の西隣りに当る徳照館の地点から安土・桃山時代の土師器や絵唐津の皿などとともに出土した。光量を調節するための蓋部のスリットと、燈芯脇の舌状突起に形態上の特徴がみられる。

(大学校地学術調査委員会調査主任)